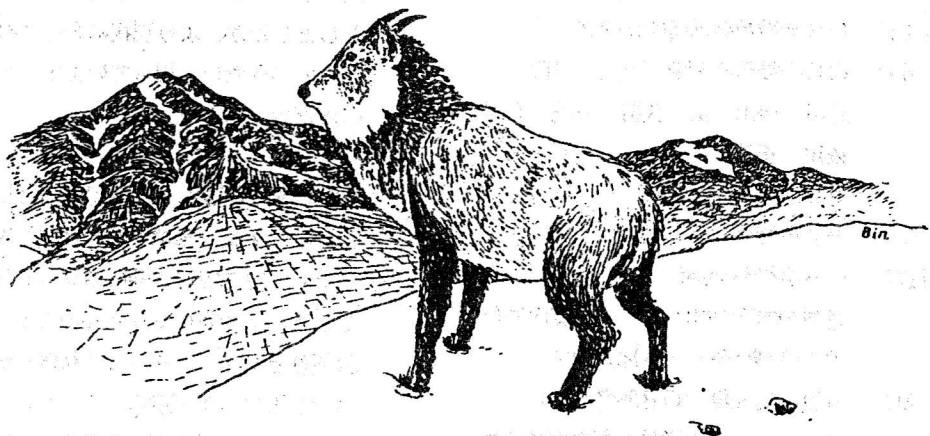


やまぎと

会報4号（'95冬号）



金沢大学ワンダーフォーゲル部・OB会

OB会会長の挨拶

13期 大島 良治

会員の皆様、お元気でお過ごしでしょうか。金沢の今頃の天候は例年と同じ、どんよりした曇空の日が続き、今年は雪が早く降るような感じがします。

去る9月23、24日に山小屋ベルクハイムにて「月見の宴」なるものを催し、38名のOBの出席をいただきました。今回の催しは、昭和45年5月に事故で亡くなった、徳島県出身の桂君の冥福を祈って造った「愁心」碑を補修することも目的でした。私は都合により参加出来ませんでしたが、後日写真を見せてもらおうと、素晴らしい出来映えでした。参加したOB、現役諸氏の労力、そして設計者の辰野君に対して、感謝の念を抱かずにおれません。

ベルクハイムも改修が完了し、桂君の碑も新しくなり、後輩達が先輩の足跡を大切に、確実に守っているという実感を今年の秋は持ちました。

唯、今回の行事で感じましたことは、OB会の催しに対しては、現役諸君は大変な労力を強いられます。なにせ、現役40名強に対し、OBは500名強の大世帯なのです。以降のOB会の催しに関しては、出来るだけOB会員で計画、実行をするという姿勢が必要かと考えております。皆様40周年総会にて、御一考下さるようお願いいたします。

このOB会を支えている役員・事務局の方々に感謝するとともに、皆様にも今まで以上に、OB会への御協力をお願いして筆を置きます。

OB会役員会の活動経過

とOB関係情報

(井は日時の確定していないもの)

- 8月3日 会報3号製本完了
井 会報発送 (中川)
- 8月12日 15期横井氏 木曾川で水死
- 19、20日 24期同期会 (青木湖)
井 月見の宴返信集計 (鳥越)
井 月見の宴企画立案 (桐)
- 9月1日 OB会役員会通信N016発送
6日 OB会役員会開催 (上馬 舟田
北川 椿川 梅 久富 鳥越 石川
佐川 正善)
月見の宴打ち合わせ
井 愁心碑補修立案 (辰野)
- 9月17日 OB会役員会通信N017発送
月見の宴参加申し込み者に案内送付
愁心碑補修班への参加依頼を同封
- 23、24日 月見の宴開催 (OB38名参加)
- 10月12日 月見の宴 写真送付と葉書感想依頼
- 10月25日 月見の宴反省会・現役3回生との懇親会
- 11月1日 OB会役員会通信N018送付
- 11、12日 15期同期会 (穴水)
井 名簿改訂、ラベル作成 (名倉)
井 会計報告・発送人ラベル作成 (鳥越)
井 一言通信はがき作成 (坂尻)
井 会報印刷 (中川)
- 12月井 会報発送 (椿川、久富)

一言通信はがきへの お願い

*住所確認のためにも必ずご返送下さい。

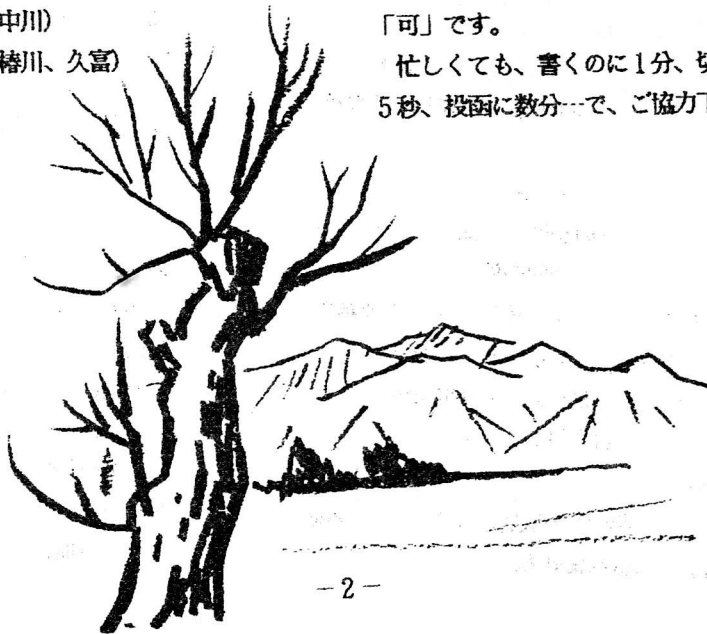
*通信欄には、近況報告、感想、提言などを
お願いします。

役員会ではそろそろ40周年にむけての準備を
始めます。35周年の時は従来どおりの白山登山
としましたが、より現状にあった内容と体制を
考えていきたいと思っています。そのヒントも
いただけたらと思います。

前回、私信としての使用厳禁としましたが…
あれは、実は、鳥越氏が受け取り人となっている
ため、彼の周辺の期に目立ってしまった現象
でした。人望篤いトリさんのこと、つい個人的
お便りとなってしまって「私信だから、載せない
で」といった程度のことでした。が、会報の
上では、「月見の宴への参加×、白紙」が続く
ことになってしまいました。

これではOB会を否定しているようにも受け
取られかねない。半端な注意では、トリさんの
人望にまたも圧倒されかねない…とキツク忠告
させていただいたものです。私信でも、会報に
掲載して皆さんもほのぼのと楽しいものなら、
「可」です。

忙しくても、書くのに1分、切手を貼るのに
5秒、投函に数分…で、ご協力下さい。



書記録訂正の件について

35周年誌の年表について、「事実と違う」「冬のPWがいくつか抜けている」「積雪期とするなら11月後半のアルプスも入るのでは」といった訂正やご意見が寄せられています。

記念誌の年表は、部誌BHの年間行事報告をまとめたものです。それを部室にあるPWインデックス（1PWを1行とし、PW名称と日時のみを記載し、検索できるようにしてあるもの）と照合しました。

BH誌は概ね12月を締め切りとし、編集・校正にあたったことから、年末から年度末までの扱いがバラバラで、この期間が次期に引き継がれず、抜け落ちていることもありました。それは任期変更で、記録のチェック者も年度替わりしてしまうようになってからは、いっそう曖昧になっていったように思われます。

「35周年事後報告書」でお知らせしましたが、前田先生が、顧問就任依頼の計画書を整理し、記念誌のPWと照合して下さいました。しかし、計画書はあくまで計画書であって、実際行われたのか、メンバーやコースにどのような変更があったものかは一切わからない……とのことでした。

その照合で追加になったものについては、35周年総会時に、現役編集委員に頼み、参加しているOBに手分けして訊ねてもらいました。「忘れた」がほとんどでした。

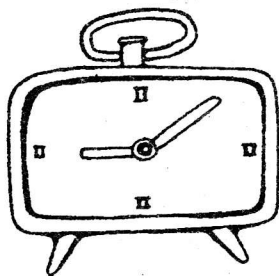
ちなみに、BH15号は、山小屋改築による資金不足で手書き発行となり、行事報告が抜けてしまいました。編集長は当時の4回生でろうじて当事者のうちというわけで、こ汚いバインダーを持ち帰って調べたのですが……メンバー表のないもの、感想ばかりでコースの記載のないもの、参照された後もとに戻されていないもの……年月が過ぎてから事実を追うことの難しさ、虚しさを思い知るばかりでした。

毎年BHを出すことで、その年度の正確な記録を残して……と切に願います。

部の歴史を正確に、着実に重ねていくためにOB会も、資金援助という応援をしていけたらと思います。

当時のP審議長へは、5W1Hの分かる形式の記録用紙を作り、計画と実行されたものをセットにして保存して……と提言しました。

もろもろの言い訳を並べましたが、40周年誌に、最後の記録訂正を掲載したいと思います。そのあたりを「時効」とさせていただきます。記念誌掲載のPWについての確かな記録、記憶をお持ちの方は、それまでに事務局へ訂正の連絡をお願いします。



「積雪期」の活動についてですが、これは現地に雪があったかどうかではなく、「冬期」の活動という意味で使用しました。

秋休みのPW後、冬眠状態になる部員が多く、冬期にどのような活動を行うか？は部の課題でした。

山岳部的だと反論されつつ雪山が取り組まれたのは、北陸にあっては山が雪山になることは避けられず、四季を通じて自然と向き合う上で雪山も取り組むべき……とされました。仕方なくではなく、多くの部員が白い世界には魅せられていったようです。

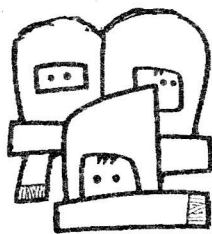
「ワンゲルとは？」にとって、この時期が本音のうかがえる時ではないか？さらに山岳部的に雪山をめざしていくのか、この時期こそロード主体に活動していくのか？ゲレンデスキーから山スキーへといった動きが出てくるのか？……そんな観点から、まとめてみたものです。

雪山にこだわりのあった方には、一つ一つのPWが次の足かりとなって、地域や、山行時期が拡大されていったのであり、冬のPWが抜けていることや、年度区切りにミスがあるらしいことは「仕方がない」ではすまされない問題であろうと思います。

この件については、やはり「こだわり」のある方に、事実を追っていただくしかありません。どの時期にどんな装備が、どんな技術が導入されていったか？興味深いテーマだと思います。今年は5月末に雷鳥沢で、現役が雪上トレを行事として行っており、雪山志向が強まっている印象もあります。

記念誌編集長もかつて雪山に魅せられた一人なのですが、OBになってからは、余りに雪や岩といった先鋭的な山行をする人は、かえって境遇が変わった時山から遠ざかってしまうといった見解を持つようになりました。生涯ワンダラーであるために、活動を柔軟に多様化していくのは歓迎の気持ちで「積雪期」の扱いにも働いてしまったと思います。

「積雪期」について、前述のように部室の資料でまとめることは困難であり、各PWのリーダーに問い合わせることが一番確実なようです。責任転嫁のようですが、もし調査にあたって下さる個人、グループがあれば、編集活動費をまわします。青春の正確な記録を掘り起こしたい方を募集します。



ビーコン及びアマ無線に関して (その2)

「こんな時に言うのも何ですが…」と懇親会の折りに聞きました。

年度はじめの3M会(3年ミーティング)では、ビーコンにせよ、アマ無線にせよ、今の自分達には使いこなせそうもない。もし、それだけの資金があるのなら、プールしておいてもらって、いざという時1回でも多くヘリを飛ばすとか、すぐ使えるお金としておいてあるとありがたい…ということにまとまったのだそうです。それを口下手の佐川が「いらんだろうになりました」しか言わなかった。と、佐川氏は責めを一手に引き受け、立派に主持職を務めているようでした。

それでもさすがに冬山がせまり、「どうしよう」「今から受けても間に合わんし…」の声も、かすかにはあるよう…。

事故が起きてからより、事故を起こさないように役立ちたいものですが、当人達が希望しないというのなら…。ともあれ正確な返事をお伝えします。

彼等も何か起きれば、まず頼れる所はOB会と考えているそうです。その意味では、OB会がきちんと活動していることが、遭難対策につながることもなのかもしれません。

部誌BHを出すぞ！

33-37号編集長 西馬 由岳 (38期)

この度、部誌BHを発行すべく活動することになりました。今回こそは何としても発行しようと決意しております。さらに、今後年1回の発行を軌道に乗せることももくろんでおります。

とは言ったものの、まだたいした活動はしておらず、この先の計画も立っておりません。どうなるのか不安ではありますが、OBの方々に予告することになってしまいました。

OBの皆さん、我々編集委員も頑張りますので、助言と資金援助をお願いします。なお、広告の掲載も予定しておりますので、もしよろしければ御協力下さい。

それでは皆さん、お楽しみに。



事務局からの補足

昨年も部誌BH発行の話が持ち上がりながら没。今回は先の28-32号が発行されてから5年目ということで、「何としても」と気合が入っている様子です。

部発足の翌年から発行された部誌BHは、昭和61年の27号以後中断。平成3年によくやく28-32号がOB2年の水腰・石倉さんの努力で復刊されたものの、また中断となりました。金大ワンゲルに限らず、機関誌、同人誌といったものは廃刊の傾向にあるようです。

かつて部に歴代のBH誌が並んでいた頃、それを読んで活動の示唆を与えられた人や、部活動への苦悩の答えを求めようとした人もありました。マルチメディアやインターネットの時代であっても、時間・空間を超える活字の魅力は失せるものではありません。

さらに35周年記念誌をまとめた体験からは、年月がたつほど事実は追えなくなるものであり、1年毎の記録の総括を担っていた点でもBH誌は評価できるものでした。

BH誌発刊への資金援助は、第1回の役員会にて承認されています。5年ぶりの発刊となると、記事の中には若手OBも含まれています。また、現役も当然OBになるのであり、彼等の

活動記録がきちんと残るよう援助していくことは、十分OB会の目的にかなうものと思います。

今回は外部発注を行います。次回から本当に毎年の発行とあれば、OB会報のような安価な手段も考えてもらい、その時はその時なりの支援体制をとってみたいと思います。

またBH誌は完成後の会報に同封し、全OBに配布する予定です。現役との交流の企画への参加もなかなか難しいことで、BHを手にしていただくことが確実な交流の手段とも思います。

囲みの中にありますように、広告、編集活動への差し入れもよろしくお願いします。

宛先は 金沢市田井町10-5 田中荘5号

西馬 由岳 0762-23-8201

若手OBの方々へ。今回のBHには皆さんの原稿も載ります。OB会費未納の方は、これを機会に納入をお願いします。一括納入の場合、35期までが1万円。36期は3000円です。

郵便振替口座 00780-3-14120

金沢大学ワンダーフォーゲル部OB会

＊登山道整備補助金のこと

月見の宴の直後に、ナカオ山岳会の林代表から聞きました。「登山道の修復に動いているような団体があれば、補助金を出してやるように」という声が、金沢市長から、農林関係の部署にかかり、そこから林さんに問い合わせが入ったそうです。林さんとしては、医王山のナカオ新道以外に手を広げる気はなく、もし金大ワングルが高三郎の道に取り組むつもりがあれば、そのように図ってやってもよいが…ということでした。

懇親会の席で現役3回生に聞いてみたところ、彼等は大乗気で、

「部も個人も万年金欠で、是非お願いしたい」とのことでした。

その際同席していた上馬さんと梅さんからは「あそこは国有林であり、さらに自然環境特別保全地区で、本来は一本一草たりとも手を加えてはいけないことになっている。そのあたりを行政サイドで解決しておいてもらった上での話なら…」との懸念が出されました。

林さんにはその懸念を伝えた上で、話を進めていただけるようお願いしました。書類の上ではどうしていけばいいのか？林さんのアドバイ

スをいただき、前田顧問にもご相談して、進めてみたいと思っています。

そうやって高三郎の登山道整備が進んでくれれば幸いです。

今でも、高三郎は金大ワングルの山であるということは、石川県の山屋なら知っています。

「おらが山」といえる山があること、先輩・後輩が等しく懐かしく思える山があることは有りがたいことだと思うのですが…。

月見の宴の感想に添えて、次のような提言がありました。

「前回ベルクハイムに行って感じた事ですが、現役部員はさほどベルクハイム自体には愛着を持っていないように思われました。でも、もっと使って欲しいと思うのは私だけでしょうか。

そんなことから提案したいのですが、OB会の有志による山小屋作業はいかがでしょうか。金沢近辺に在住するOBの有志が、適当に日と作業内容を決めて1泊して作業を行うという方式です。

私も含め、山には行きたいけれど、体力と時間がとれないという連中がほとんどだと思います。でも自分の愛したベルクハイムのために、2日間を作って集まるというのもよいのではないのでしょうか。

来春あたり一度計画してみませんか。」

私自身も地元OBは飲み会へと日和るのではなく、小屋作業でつながっていけたらと思っています。そんなまとまりがあれば、万一の遭難時も、まじな対応ができるのではとも思います。40周年にはワングル平の看板を立て直したい…も、夢なのです。



(今年の3回生は38期。高三郎での新トレが再開された時には1回生で、その時は引火事故で山行は中止になりました。35周年を1回生の夏に体験しました。城内キャンパスで4カ月を過ごし、あの長屋部室を知る最後の代です。男子ばかりの13名。当日は哀れ追試の餌食になった人達を除く9名が参加しました。)

□新入生勧誘について—看板を立ててもいいのは文化系サークルだけ。運動系はどこも看板禁止になっている。

新入生を飲ませるのがボッカトレの後。あれで呆れられて、辞めていくのが何人かいる。

「マネージャーならいいですけど、部員になるのは…」と辞めていった女の子もいたぞ。

□角間キャンパスに移ってから、部室に寄ることが少なくなった。以前は、授業が抜けた時には行って昔の記録を広げて読んでみたり、帰りがけには必ず寄ってみたりしたものだったが、今は行かない。場所的に離れていて不便。寝られるような雰囲気もないし。山行の行き帰りも不便。利用できるバスがない。

□今年の秋休みはPWが1個。

(PW審議長がPWを増やすよう努力しますと紹介の時も言っていました。)

それは—学部ごとに休みがずれて出しにくいの？

個人山行を認めたことが第一の原因。3回生くらいになると、結構2人用なんかのテントを持っていて、自分達で行こうとあっさり話がまとまってしまう。PWにすると手続きが面倒。まず学生部に行ってアボを取って来る。その日に見てくれる訳ではなく、指定された日にもう1回行って説明して、何か言われたことをもう1度P審にかけて、となると3週間はかかってしまう。ああ、面倒！で個人山行に流れてしまう。

でもそれはチェックがなくなり、隠れ山行になっていって、かえって危険を増やしていることにならんかね

マズイと思っています。PWは1個しか出なかったし、結果的に1年生が山へ行けなかった。

(昔PWは公募が義務づけられていたように思いますし、自分でPWを出すことは夢でもありました。善処を望みたいところです。)

□車使用の件—走行距離につきいくらか、運転者の負担を減らすとか、車使用を強制されないなどの運営規約は決めている。しかし本当に事故を起こしてしまった時にはどうなるか、自分達にも見当がつかない。しかしアプローチが略段に楽になり、ワンデイハイクの範囲が広げられ、車志向は避けられない。ともかく、助手席の奴が声をかけたり、休憩をとって帰路には気をつけるようにしている。

□「大名食当」というのは知らないが「1年生の日」というのがあって、山の最後の日には1年生を仕事から解放している。合宿の時、自分のパーティーでは仕事が一巡した後は、毎日ボーカーで分担を決めていた。パーティー単位が小さいこともあり、一緒に仕事をしている。

□歓送コンパは今は施設(安い旅館、国民宿舎)で泊まりこみでやる。それは4回生の主催で、どこでやるかはギリギリまで秘密。金かかるだろうな。俺達の代はたくさんいるから一人当たりが減って助かるけどなあ。

□新トレの後は小屋作業まで誰も小屋へは入らない。小屋作業の下見に数名が入る程度。出島からの草刈ですか？あれはキノコ取りなんか刈って行くらしくて、僕らが下見に行った時はまだボウボウ。どうする？これも懐かしい自然や、そのままにしておこうといったら、本番の時にはもう刈ってあって。ええ、去年なんかもそうでした。



OBの方からは、

月見の宴の後の白山で、現役と院生OBに声をかけられ、ずっと話しながら歩いて楽しかった。気軽に声をかけて欲しい。その方がOBも嬉しい。なかなか全員の顔を覚えられもしないので、山へ入る時にザックにつけられるようなワッペンかなんか、金大ワングル関係と分かるものがあるといいと思う。結構年功序列の残る部だが、卒業すればそんな構えを外して、同じOBとして気軽に交流できる仲間になっていきたい。

の提言や

就職するにあたり、公務員としての心得を聞かせてほしいとの電話をもらい会ってきました…との交流も報告されました。

という次第でお酒も次々追加、楽しい一時が過ぎました。山の無事をお祈りし、近い将来OB会員として歓迎する旨お伝えして、お開きとしました。

(酒、ワッペンの件、傷害保険の保険証を兼ねれば、必携してもらえるのではと思います。損保関係の方、このアイデア買いませんか?)



参加予定者からの通信

*仙田 厚太郎

1期

何時もながら、色々お世話していただき本当にありがとうございます。

久し振りに多くの人達と会えるのを楽しみにしています。

*田村 昭夫

3期

当日、「白山いくたび」と題する、元金大学長金子曾政先生の詩を持参いたします。作曲に心得のあるOB、現役で、この詩に曲をつけて部歌としたら如何でしょうか。

*小林 宜泰

3期

倉谷で砂金取りをしたいものです。

*村田 泰恵

7期

20年ぶりに日の目を見た登山靴。雪溶け水の中でもしっかりと防水が効きました。6月には雨飾山、8月には八ヶ岳、天狗岳-横岳-赤岳と6期の上野先輩としっかり縦走して来ました。これならまだまだ頑張れそうです。中高音パワ-全開と云ったところです。

*穴田 昭一

8期

学校登山で中学生達と8月2日、3日と白山に行ってきました。その前後はずっと晴天だったのに、2日、3日は雨とガスと風…。しかし、ワングル1年生(昭和38)より白山へ登り始めて、今夏のお花畑は最高。OB会月見の宴、お世話、ご苦労様です。楽しみにしております。

*平村 耕作

9期

月見の宴の準備ご苦労様。やまざと3号楽しく読まさせていただきました。倉谷へ入るのは何十年ぶりでしょう。楽しみにしています。